

午後1時零分再開

○議長（堀尾俊浩君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、16番実藤輝夫議員の質問を許可します。16番実藤輝夫議員。

（16番実藤輝夫君登壇）

○16番（実藤輝夫君） 16番実藤輝夫でございます。今6月定例議会の最後の一般質問権者になりました。

今回、私は2つの特筆すべきこと。1つは、この間のコロナ問題で6月中の一般質問が中止というような話を聞いて、また、その後、コロナ問題に関しては極力控えることというような問題が出されてまいりました。皆さん方の御意見をもとにしながらこうして一般質問をすることができることになりました。

加えて、よその議会では、二、三人ぐらいの質問者と聞いておりましたら、この朝倉市議会では8名、私を含めて質問者が出たと。非常に私個人としては喜ばしいことだと思っております。

ある市民の方からメールが来まして、「市民と議員との違いは何か分かりますか」ということでした。皆さん、どうでしょう。市民に発言権はあります。表現の自由。もちろん議員もありますが、「議員は資格を得て、公的な場所で発言ができる。自分たちにはその権限がない。だから、議員は議会という機関を通じて大いに発言をし、市民の声を反映してもらいたい」という趣旨でした。

2つ目は、私が今回の一般質問をしようとしたのは、ちょうど九州北部豪雨3年目に当たり、「忘れない7・5」ということを、標榜しながら数年間やってまいりました。

私の住んでいるところでは、九州北部豪雨の話がテレビ等で出たときには出ますが、ほとんど普通のときに出ることはもう今なくなっている。それでいいのかと。コロナに関しては、日本全国、福岡県も朝倉市も大いに論議はするが、まだまだ九州北部豪雨の爪痕は消えていない。被災者の方から電話をもらい、メールをもらい、そして、その実情を訴えられるときに一議員としては「忘れない7・5」ということで、今後も続けていかなければならない。そういうことを今回の一般質問で述べようと心に決めておりました。

不幸に今回の事件が起きましたが、私が通告しております今後の課題、そして、災害の対策、まさにこの問題を抜きにしては語られません。

1つは、被災地、被災者の嘆き、悲しみがこの問題で増幅したと。非常に憤りの電話を頂いております。

1つには、ハード。後から質問いたしますが、ハードの進捗状況。そして、もう一つはソフト、被災を受けた方々の生活再建支援はもちろんのこと、心の問題、将来の不安、そういったものが課題として参っております。今回の不幸な事件をもとにしながらそれ乗り越えていく今後の施策が必要だと感じております。

以下、そうした趣旨から質問席より質問を続行いたします。

(16番実藤輝夫君降壇)

○議長(堀尾俊浩君) 16番実藤輝夫議員。

○16番(実藤輝夫君) 議長の許可を得ましたので、ちょっと喉の関係で外します。これだけしときましょう。

後の問題に関係がありますので、まず、コロナ対策のほうからお話をさせていただきたいと思います。

また、進み具合におきましては、財政状況と今後の見通しは9月議会のほうに持ち越すこともありますので御了承いただきたいと思います。

コロナ対策の現状、これまで朝倉市議会も行政、市長を中心にいろいろな話し合いをし、施策を出していただきました。

まず市長、今、コロナ対策の現状ということですがけれども、今までの経過を見ながら、市長の考え、そして、今の思いを少し簡単に述べていただきたいと思います。

○議長(堀尾俊浩君) 市長。

○市長(林 裕二君) 新型コロナウイルス対策につきましては、市民の生活をしっかり支えていく、それから、事業者頑張ってもらって、そして、経済が動き出したといったことのでございますので、しっかりやっていきたいということで考えております。

○議長(堀尾俊浩君) 16番。

○16番(実藤輝夫君) この間、2カ月、3カ月にわたりながら、先ほど言ったように、第2弾の施策を出されまして、ここに一覧表を出されております。朝倉市なりの施策が出されてきたと思っております。

全国津々浦々、全国の市町村も独自のものをしておりますが、朝倉市は朝倉市としてこれで是非かということよりも話を進めていきたいと思います。

まず、私は、今日は時間的なものもありますので、職員の方を褒めたいということがありまして、1つは、職員の皆さんがエールフラワーというのを出されました。私も議員として何かしないかなと思いつながら何か具体的にすることができなくて、ただ単に10万円もらえば、それをいかにして飲食店、その他に貢献できるかと。実は今もやっております、友達にも呼びかけたりして、知り合いの飲食店のところへ行って、ついでにスナックまで行ったということもあります。大体、週に二、三回昼食を中心にしていっております。喜んでいただいております。10万円を、閣議決定を覆す、公明党だけではありませんけども、力によって本当に私の周りは喜んでおります。特に一人住まいとかのおばあさんたちはそれを楽しんで使っておるというふうに聞いております。

そのエールフラワーを職員の方が出されて、私は蘭でしたけど、まだ3分の1、花びらは残っております。大体2週間ぐらいというんですけど、今日で25日目。

これは何でこんな話をするかというと、こういうときこそ市民が一緒になって、市長を

中心に、職員、議員もそういつてもらったお金を何かいい方法で還元していく。私は、一つの狙いとしては、身近な人たちに少しでもいいから何かを買ってくださいと。そうしたら生産者もそういった飲食店も喜んでくれます。

ましてやなぜ言っているかという、もらった花を私は玄関に飾っております。来る人が、「うわっ、きれいやね」と。「これは職員が頑張ったんですよ」「ああ、そうね」という形で。何かそういった温かい市民の動きに基づいて疲弊する消費活動を少しでもと。これは、市長以下、職員の皆さん方もぜひ頑張ってもらいたい。私も続けて今日も終わってほっとしましたらどっか行こうかなと思っておりますが、半分は柔らかに、これは褒めるというか、みんなでやろうという考え方ですので。

副市長、あなたはこちらに來られて、4月から。10万円はどのようにお使いになりましたか。計画をちょっと教えてください。

○議長（堀尾俊浩君） 副市長。

○副市長（右田博也君） 私の10万円の計画でございますけれども、私も子どもが今年大学に入ったということもありまして、生活費の関係もございますが。

当然、私もこちら朝倉市に参りまして、副市長の仕事の一つとしてはやはり市民の皆様にごできるだけお近づきになるということで、それから、朝倉市の経済に少しでも貢献できるようにということで、先ほどおっしゃったエールフラワーのほうも私も買わせてはいただきました。

今、自粛の中でそういった出前、テイクアウトというの、皆さん、事業者の方が頑張って取り組んでおられるということで、そういったところでもできるだけ協力をしていこうということで、日々、考えながら生活をしておったところでございます。

○議長（堀尾俊浩君） 16番。

○16番（実藤輝夫君） 唐突に何でこんな質問をしたか、先ほどの布石があるわけですけどね。やっぱり飲食店も含め中小企業の、特に零細企業の方々からすると少しでも私たちに協力してほしいという気持ちがありまして。

そのときの話でも、「職員何人ぐらいおるんですか」と聞かれたから「500人ぐらいですよ」と。「10万円のうち1万円ぐらいでも私たちの朝倉市に消費してもらおうと500万円になりますよね」という話になりました。これは、生活給、その他、個人でもらった金を私がとやかく言うあれはありませんけども、心の問題だろうと思っています。

私は、そういったことが先ほどの職員さんたち、私たち議員もそうだけど、良過ぎるとか何とかと言われるんですが、そういった具体的な還元をしていけば、それが一つの波になっていい形をとられるのではないかと。やっていることは私なんかはわずかなことです。しかし、それが一つずつ積み重なっていけば、大きなうねりになるのではないかなということをおもっておりますので、あえて副市長に。ぜひ甘木、朝倉、杷木、飲食店その他いいところがいっぱいありますので、一緒に行きましょう、どうですか。答弁なくて、イエ

スカノーか、頭を下げりゃいいです。はい。そういう運動をしていきたいと私は思っておりますが。

もう一つ、具体的に市がこれから先やっていく支援策、これはこれから先いかなることがまだ起こるか分かんという状況の中では、非常に大きな課題になってくると思います。

これは、何の話をしようとしているかというのと財政の問題です。お金。

第一弾で、今日、傍聴席にも来られていますけれども、第1回の支援策で約1億4,300万円という金額が朝倉市独自の施策で出てきました。これは御承知のとおり国の施策で1兆円が地方創生交付金という形で渡されて、そしてそれが約2億1,800万円近くが参りました。それで、1回目の支出に関しては、結局それで賄われたということになります。

その次、第2弾、25日の臨時議会で出された提案ですけれども、これもそのときの差額7,500万円がありまして、最終的に市の持ち出し分としては約2,000万円、1,800万円ぐらいですかね。そのぐらいにとどまっております。

幸いにして、今、2,000万円ぐらい持ち出しているんだけど、今回の国会で2次補正が成立しました。それで、これも地方創生交付金という、臨時交付金というのが2兆円出されてきました。願わくば、これはどういうふうに使われているかというのは、各自治体がどうだこうだというわけにはいきませんが、恐らく1兆円で2億1,800万円ぐらい来ましたので、恐らく最低でも2億円は来るだろうというふうに踏んでいます、分かりませんが。今、持ち出し分の2,000万円を超えることは間違いありません。

そうすると、何が言いたいのか。まさに朝倉市の経済を活性化させるために、個人個人の力ということをお願いし、私もやると決めておりますが、やはり市として公平公正なという形をとらざるを得ませんから、何だかんだというわけにはいきませんが、今、非常に商工観光課、農林商工部、あるいはその他、皆さん方の知恵を出して朝倉市独自でやっておりますので、ぜひこの点については今後も大盤振る舞いということを心配する必要はないと思いますので、その限られた枠の中で十分だと思いますが、大いにやっていただきたい。

市長、この点についてどう考えますか。

○議長（堀尾俊浩君） 市長。

○市長（林 裕二君） 議員御指摘のように、今月12日に新たな補正予算が成立をして、地方創生交付金という形で2兆円が措置をされました。そのうちの1兆円につきまして国が示しておりますのは、これまでの支援ということ、そして、経済支援ということと、もう1兆円は新たな生活様式ということで、おおむね示されておりますが、詳しくは、配分額を含めてまだ明らかにされていないという実情でございます。

議員から御提案いただきましたように、これから先は朝倉市民にとって、朝倉の事業者にとって必要なこと、そして、全国一律でやるべき課題は対応するとして、朝倉市に一番ふさわしい形で取り組んでまいりたいと思います。

○議長（堀尾俊浩君） 16番。

○16番（実藤輝夫君） これは大きな問題かどうかは分かりませんが、市長にこれは聞いていただきたいという市民の声もありましたので。

福岡県は29市ありますね。その中で市長を含めた三役の報酬、給与報酬を削減したところが約5市ぐらいでした。残りの20市の市長はしていないんですけれども。

私は、先ほど申しましたように、せっかく頑張ってもらったこの10万円をただ単に削減して一般会計の中に入れて、決算時点でそのまま執行残として終わってしまうんじゃなくて、やはりそれぞれがもらった自分の考えの中で市民に還元していく、そういった形だろうと。これは自分のお金として自分の中に入れることもできますし、私も言っているように、市民に還元することができる。

そういったいろんな考え方の中で、市長、三役が29市の中の5市ぐらいがやっている。しかし、その他はやっていない。今回も市長は出されていないんですけど、その点について、市長の考え方があれば、教えていただきたい。

○議長（堀尾俊浩君） 市長。

○市長（林 裕二君） 新型コロナウイルス感染症に対しまして現在の時点では考えておりません。しかしながら、今後、第2波、第3波ということが生じる可能性もございますので、そういった状況を見ながら今後考えていきたいと思っております。

○議長（堀尾俊浩君） 16番。

○16番（実藤輝夫君） 私も同じ考えです。当面は、先ほどから述べていますように、国の制度で、国が補正予算でそれなりの金を出したと、それで、また出してくるということが分かっておりますので、あえて、私たちの報酬、あるいは給与を削減する必要はないんじゃないかと。

その分、私は、先ほど申しましたように、自分の範囲内であちらこちらに少しでも還元できる、自分のもらった金は自分なりの考え方で処理していきたい。市長も同じだろうと。

まさかのときになれば、そのときに考えていくというのも一つ、これから先どのように動いていくか分かりませんので。その点についてはそうだろうと。

とにかく、とにかくにも、そういうことよりも、市民が喜ぶ還元策を取って、消費活動に一石を投じ、そして、市民の連帯にこれがつながっていくようなものは、市長も私も同じように思っているんだろうと。これが一つの契機になればと。悪い災いを転じて福となすという形になればと微力ながら私も努力をしてまいりたいと思います。

今後の施策、共に議会のほうも対策会議は解散せずにおりますので、議長を中心として恐らくこの話は進めていくと思いますので、しかるべきときにまた論議をしていきたいと思います。

次に、先ほど登壇して述べましたように、今回の九州北部豪雨の件につきまして、「忘れない7・5」、何回も繰り返します。一つのスローガンに。これは福岡のテレビ局が出

してきた言葉なんですけど、私はそれをメールに入れまして知り合いの方にも送ってまいりました。

まず、最初に、全体的にいろんな今回の不祥事件もさることながら、あるいは非常に、これを解決しないと今後の災害対策にはならないと私も思っております。

その前に通告しておりますように、復旧工事の進捗状況というのをまず把握すべきではないかと。なぜかと言いますと、今回、私がしたこの一般質問というのはちょうど3年目で、これは市のほうから頂いた取り組みなんです。「復興の取り組み」、これはもちろん3年前に作りました復興計画です。これがちょうど3年目で、令和元年度で第1期の復旧期という形で終わっていますが、これも継続していきます。

しかし、問題は令和2年、今年です。

今年度から「再生期」、普通でいうと「復興」という言葉を使うのですが、ここは「再生」という言葉が使われています。これがスタートするというふうにして計画があるわけです。これは、そうしないと将来的に、復旧・復興といいながら、具体的な復興の施策が、特に国の予算を中心としてやらざるを得ませんので、これが一番最後の財政の見通しという形で私は出しているのですが、心配をしております。

それで、今、この「復興の取り組み」にはいろいろと書いてありますけれども、一番、私が今日の一般質問で参考になるのは、資料2の災害復旧事業の取り組みというところです。これがやはりキーになると思います。

これは具体的に、進捗、完了率というのが出されておまして、これを見ますと、今、順調に行っているのは、ため池の朝倉市分だけですが、これが93%。それ以外は十何%とか、非常に進捗状況が悪いところがあります。平均的に50%ぐらいですかね。これが後の問題に関わってくるわけです。まだまだ河川も山林も、それから道路も堆積その他が出てまいります。まだまだ残っております。

そういった問題も含めて市民の考え方というのは、「何とか早くしてほしい」「一日も早く帰りたい」、こういった思いに対しての今後の対策ということの前提になると思って、進捗状況を出していただきました。

市長、この点について、細かいものは、全体からすると8カ所、そして、その事業内容、これをかけますと何百となりますので、全体的に、今、市長が感じておられるところから進めていきたいと思います。

市長、どうぞ。

○議長（堀尾俊浩君） 市長。

○市長（林 裕二君） 九州北部豪雨から7月5日で3年という時期になりました。30年、31年と出水期におきまして被害が出るという状況でございましたけれども、国、県、我々、市もみんなで力を合わせまして、道路、河川、山、農地等、ある面では順調に進み出したと、今年度は。そういう状況にあると思っています。

それから、出水期前の点検を各事業者と共同で行いましたけれども、私も参加を致しました。そして、着実に目に見える形で今進んでいるということは確認したところです。

しかしながら、御指摘のように、山田・黒川線、朝倉小石原線といった通行止めの箇所があるのも事実でございますので、事業者間、力を合わせてしっかりと取り組んでいかなければならないと考えている次第であります。

○議長（堀尾俊浩君） 16番。

○16番（実藤輝夫君） もう被災場所が非常に多岐にわたりましたから、非常に進んでいるところと、山間部のなかなか機械が入りにくいところの差がもう完全に出ていますね。それと、国が中心としてやってる赤谷川の周辺の河川の問題、それ以外のところの差がまたこれも激しい。

どこを見るかによって違うんですが、私が、今日、中心的に取り上げたいのは、やっぱり今回の不祥事件です。なぜかという、復旧・復興のときに今後の課題、今後の対策というときには、被災地、被災者を抜きにしてももちろん語れないわけです。だから、ハードの部分、さっき言った河川だ道路だ、その他もさることながら、やっぱりそこに被災された人たちの思い、悲しみ、苦しみというものをいつまでも忘れず吸い上げていく。それが今後の課題であろうし、対策である、そうならなければならない。人を大事にしない政治はあり得ないわけですから。

そういったときにこの問題が出てまいりました。これは、「仕方がなかった」「分からなかった」という言葉が飛び交っておりますが、やはりこういう問題が出たらその言葉では終わりません。やはりそれなりの責任と、そして、問題を検討しながら今後の対策にしていかなければならない。

私は、今日、これは誤解のないように。私は警察ではありませんから、今度の事件は犯罪事件として成り立っておるわけですが、ここでその問題を追及する気はありません。

私がやろうとしているのは、あくまでこの問題を通じて朝倉市の今までのやり方、「仕方がなかった」ではなく、そういう状況であっても、この問題が出た以上は、今後、再発防止という面でどう捉えていったらいいのか。そのためには、これはどういう事件として、今、捉えられているのか、これを解明していく必要はあると考えています。

もう一つは、先ほどから何回も言っておりますように、被災者の信頼が。私のところにメール、電話、何件もかかってきます。先ほどもかかってきて。議会中でしたので、今、先ほど見ましたら、3件来ておりました。こういう問題を抜きにしては語れない。だから、誤解のないように。

今後、朝倉市の復旧・復興が被災者の信頼を受けながら、そして、私どもも少しでも明日の朝倉市のためにという視点からこの問題を論じていきたいと思っていますので、市長、その点よろしく願いいたします。

まず、今回、14日の夕方、連絡がありました。私も寝耳に水の状況で、今、こういう問

題にタッチをしておりますので分かりませんでしたが、びっくりしました。その後、15日から1週間、メディア、電話その他、もう本当に大変でした、私なりに。いろんな情報が入ってまいりました。市の職員からもいろいろ聞きながら新聞も見ながらテレビも見ながらという形で。

ここに私なりにこういう事件の概要と問題点を自分なりに自分の下手な字で書きました。これに基づいてやっていくわけです。

この問題の市長の受け止め方を。まず、私がずっと話をしていくというのも何かと思いますので、この事件の問題に対して最高責任者である市長はテレビ・新聞等に陳謝されましたが、今、思われること、簡単にでもいいですから述べていただきたいと思います。市民はその声を聴きたいという形で私のほうに連絡がっております。

○議長（堀尾俊浩君） 市長。

○市長（林 裕二君） まず、今回の事件につきましては、大変な衝撃を受けたということでございます。そして、また、災害から3年近くになる時期に、被災地では、あるいは被災者の皆さん方が大変な思いをされながら今日まで暮らしてこられました。そして、これからというところでございまして、こういったことも重なって、極めて申し訳ないということでございます。

市民の皆様、そして、これまで朝倉市をいろいろな形で支援、応援をしてこられた方々にお断り、おわびを申し上げたところでございます。現在もその気持ちは変わっておりません。

御指摘のように、必要なことにつきましては、これから先、早急に取り組みながら具体的な形でお示しをさせていただくということと、被災地の皆さん方におかれましては一日も早い復旧をということでございますので、事業者あわせて朝倉市一体となって取り組んでまいりますので、議会、議員の皆様方にもよろしくお願い申し上げたいという気持ちでいっぱいであります。

○議長（堀尾俊浩君） 16番。

○16番（実藤輝夫君） 時間の関係で、今、市長が話されたことを一番最後にと思いましたけれども、尻切れトンボになる可能性があるので、やはり最初に、どういう思いをされているかを聞きました。

さて、それでは、私が知り得た、私なりに分析した今回の問題、ゼロからのスタートですので、どこまでか。

ただ、皆さん方にも18日に福岡県が、もう名前が出ていますので、九州防水というところに指名停止12カ月、福岡市が8カ月、この朝倉市も検討されて19日に18カ月という指名停止をされました。

このことは、もう行政の内部では明らかな事件であると。こういうものだとも県も福岡市も朝倉市も捉えている。これは非常に、今回の警察の動きというのは緻密な形だなと思わ

れます。そういったことで皆さん方も傍聴席の方も、これはそういう対応がもうなされているということを前提として私が話をしていくということをお含みおきください。

まず、いろいろと分析を、時間的なもの、あと28分ですけども、あります。

事件の発端から行きたいと思います。

1 番目、この問題はどのような中身であったのかを簡単に言いますと、これは土砂土木撤去工事、環境省分の問題です。

具体的には、せっかく傍聴席にも来られていますので、ここ辺りの話をしていきますけれども、被災家屋並びに周辺の堆積土砂の撤去という形で事業が進められました。先ほど述べましたように、河川、その他いっぱいありまして、流木、土砂、ため池の問題、いろいろとある中でその一つの分野でございます。

この被災家屋、周辺の堆積土砂というのが、本来は家屋ですから都市計画分ですけども、そのときの状況で市民環境部の環境課のほうに話が行きまして、そこに、今回の。

あえて名前は「K」としておきましょう。Kという職員がそこに配置されたということです。ということで、市民環境部環境課の家屋等災害対策係係長という身分でもってこの問題进行处理してきたというふうになっております。

さて、次からですが、問題点を幾つかに分析しながら、市長とも見解をただしていきたいと思います。

問題は、このKなる職員がそちらに配置されて、ちょうど1年以上の年数があつたと思いますけども、約30件ぐらい、大半はKという職員が査定しながらこの事業に当たってきた。

この事件が出てきたその中の一つとして、2019年4月、5月施工ですが、九州防水——これも「Y」としておきましょう——九州防水のYという社員から頼まれて、その地域の土砂、家屋廃材の撤去の区域を拡大したと。そこからが今回の事件というものにスポットを当てますと発端のようです。

これは、後から「その当時は仕方がなかった」と。最初、調べて、それよりも拡張していくのは状況次第では、これは常識的にそういう考え方も出てきます。

しかし、おかしいというのが今回の事件で、その次に解明していきますので。これはやはり不正行為だったということを先に言っておきます。

聞いている人も、ああ、そげん言うたっちゃあこげんときはしょうがなかったんじゃないかとはならないということです。

普通はこういう災害時の混乱期ですので、非常にこういうものを処理するというのは大変でしょう。そういうことも考慮するんですが、この事件にスポットを当てる限りは考慮する立場にはないということをしつこく言っておきます。

それで、この撤去区域の拡大というのが、このKという本人1人が事業費の積算や業者選定、自らが書類の起案者だったということです。

これは、区域の変更に当たれば、変更理由を作成して上司の決裁が必要なんですけども、今回の場合はそのまま行ったようです。

あと、市幹部によりますと「決裁が一番最後の約1億3,000万円の書類しか見ていない。決裁をした」という話になっていまして、ここあたりが、後からの、その次に私が提起するものの数字を見ないとなかなか分かりにくいところがあるんですが。

単純に本人一人で事業費の積算や業者選定も任されていた。こうなつてきますと、その撤去区域の拡大が是か非かとか、ここまでかという話になるんですけども、問題の1点目は変更理由を作成した場合に上司の決裁が必要である、だからこれは皆さん聞いていて、変更ではなかったかもしれんとか、いろいろ区域がと。

ところが警察はそこをぴしっと押さえているから今回の事件になっているということなんですよ。

だから、一般論で仕方がなかった、そのときの状況で、1億円ぐらいのものを1億3,000万円ぐらいに見積もったという段階じゃなくて、捜査の結果、今、明らかにされているものはやはり不正的な撤去区域の拡大だったということです。

市長見解を聞く前に、最後に、ここの問題点は何かといいますと下請け会社から頼まれて、これは、市のそのKが、言葉として白状というのはおかしいかな、ここでは。それを言っています。そういうふうにもう報道のほうはつかみ取っています。

「下請け会社から頼まれて、事業費の予定価格を増額して、受注者側の利益も増えるよう便宜を図った」ということです。1点は。

それから、もう一つの問題点として、非公表の予定価格を受注者に教えた。通常、ここです。2番目の問題がいかなのですよ、普通は。これだけでもアウトです。

ただし、この2つが出てきまして、この問題を考えたときに、市の責任ということをして市長はこの問題を、そういうふうに出てきているんだけど、どう考えるのかということをお聞きしたい。

これは、将来の再発防止をしていくための布石です。今、そういう意味で私は質問をしています。

それで、3番目に出てくるのが、100万円をもらったということです。これでもう完全にアウト。

1番目と2番目の問題でも行政上の発注・受注のあり方からしたら大問題ですが、この1番目と2番目をもう一回言いますが、事業費の予定価格を増額して受注者側の利益を図るために便宜を図ったということが1点、2点目は、言ってはいけない非公表の予定価格を受注者に教えたということです。この2点は、行政上の問題です。

市長、この点についてどうお考えになりますか。

○議長（堀尾俊浩君） 市長。

○市長（林 裕二君） 発注業務について、そして、また予定価格の件につきまして、詳

しくは申し上げるのは差し控えていきたいと思いますが、今後、市内部といたしましても、詳しく調査をいたしまして、その対応をしっかりとやっていくということで考えております。

○議長（堀尾俊浩君） 16番。

○16番（実藤輝夫君） これは、もう警察のほうも、今、拘留期間になっているんですが、もう明らかにされているところで、メディアのほうも全部承知した上で報道いたしているところです。これは私が推論で出している話ではないということだけです。

今、市長は、恐らくそういうふうに答弁されるだろうという予測をしています。この段階ではまだ私が指摘したような問題が起こっているということに関しては内部でもう一回調べるという話ですけど、これは事実であるということだけは、今日、傍聴に来られている方、インターネットで傍聴されている方はこういうことが前提の問題であるということです。

だから、これは事実として再確認をするだけで、あとはこれを再確認した上で、再犯防止をどうするか、具体的な話を提起してほしいということです。

その次、ここから数字が出てきます。

これでなぜその九州防水が問題なのかということが出てきます。

まず、市がこの問題を発注するときに当たって、このKというのが拡大して出てきたものが約1億3,000万円です。約1億3,000万円。これを1億2,744万円で受けたわけですが、そのときにどこが問題なのか。

通常であれば、そうでもなかったんですよ。でしょう。皆さん。

この査定をしながら、1億3,000万円ぐらいかかりますよ、はい、分かりました、それでは決裁しましょうという形をやりますよね。

ところが、そうじゃなかったんだと。なぜか。

ここにおける元請け、これもKというふうにしておきますが、元請け会社が約1億円で九州防水に単独の下請けとして丸投げしたというのが出てきたわけですから。これは警察当局がその100万円の贈収賄事件の中でこれを取り調べてきたということです。そうすると、どうなりますか。いいですか。ここは数字の流れですから、よく。どこが問題か。

約1億3,000万円に利益便宜を図るために拡張した。それを約1億円で九州防水に渡したということになりますと単純計算で2,700万がこのKのところに納まったという話になります。そうすると。九州防水が1億円で受けたというのですけども、この間にもっともは9,000万円の査定、このKが最初に出してきたのは、これはその上司には言っていないわけですよ。後で上司の話によると「それは知らなかった」と言っているわけですから。

それで、この金の流れから約9,000万円というのが信憑性を帯びてきます。しっかりと——私はこれは何回も検討しましたから——1回で聞いて分かったらおかしいんですけども。

ここに9,000万円と約1億円というのがあるでしょう。当然、九州防水としては、1億2,700万円を約1億円で受けてももともとがこの工事は9,000万円ぐらいだというふうに想定されているわけです。KとYはツーツーの仲で話をしております。

いいですか。今、私が話をしていることに、うーん、という人は後からゆっくり説明しますから。

そうすると、九州防水としては、もうからん仕事はせんわけですよ。当たり前の話でしょう。だから、1億円でももうかるから1億円で受けているわけです。

それはその前の考え方が、9,000万円というのがもう報道されております。警察のほうもキャッチをしています。約9,000万円。

そうすると、そののところにまた下請けに丸投げしているわけですね。事業としては9,000万円のできるものを九州防水は1億円で請け負ったということです。単純にそこだけ見ただけでも1,000万円は入ってくるということですね。

これは、下請けに行きます。この中に元請け、下請け、孫請けとか、そういう土木、建築関係に詳しい人はこの流れはすっと分かるはずですが、どのようになっているか。私もこの3年前から、孫請け、ひ孫請けの人たちから苦情を受けました。

「俺たちは仕事がねえけん今しよるばってん上のほうはいっぱいもうかりよるとばい」  
「俺たちはもう経費すれすれで赤字覚悟でしよる」というのが、ひ孫請けぐらいはいっぱいおりました、土木の関係は。だから、そういったことが現実に行われてきて、こういうふうなのが出てきたというのが明らかになりました。

私も、もうこの間、いろいろありますから、もうこういうことにタッチしようというのはまったくくない。でも、これが出てきて、こういう被災者の方やその他市民の方から言われたらやっぱりこれを厳しくただしていかなきゃいけない。

もう一回言います。

市は、約1億3,000万円の予定価格で発注しました。元請けKは1億2,744万円で受注しました。これをKは九州防水に約1億円で下請け、丸投げしました。そして、九州防水は、その下、詳しい話は別として、孫請けにまた丸投げして、報道によるとキックバックをさせたというところまで報道されています。

もし、その話を聞きますと約9,000万円前後でできる事業が1億2,744万円という金を市が——国の補助もありますが——元請け会社にずっと払っていったという話になってきます。

約4,000万円の水増しという形になるわけです、結論は。

そこがうまくそこで回っている。ここは被災者の方がいろいろと要望を出しても、「金がない」「基準に合わない」、何だと。最低限……。

昨日も電話がありました。「災害の共同住宅に入らせてもらえるということはあるがたい。しかし、まだまだいろいろなことがあるんだ。そんなに大きな要望はしてないけど、

金がないといってなかなかしてもらえない」とか、被災者のところも、黒川でしたけども、まだまだ流木もあるし、いろんな事業もしておるらしいと思っとるけど、なかなかいかんと。

こういうのが出てきますと、これ、一つの事件ですよ。30件ぐらい、このKが扱っているんだけど、こういった問題が、このような事件になつとるということです。

市長、この見解について、どの程度、御存じか、御答弁いただきたいと思います。

○議長（堀尾俊浩君） 市長。

○市長（林 裕二君） この件につきまして、現段階では容疑事実の詳細が把握できておらないところであります。報道等によりまして、元請け、下請け、孫請けということは報道では見ておるところでございますけれども、これに関して事実関係が明らかになってくるといふ部分と、先ほど申し上げましたように、市でも調査を進めておりますので、いつの段階かということについて確たることは申し上げることはできませんけれども、しっかりと対応いたしまして、そして、再発防止が大事ですから、これにしっかりとつながっていきたいと考えております。

○議長（堀尾俊浩君） 16番。

○16番（実藤輝夫君） 傍聴席の皆さんも、今、これが私と市長とのやり取りの限界なんですよ。これは警察事件になっていますからね。これだけの報道がなされて、それを、はい、そうですかと市は受けないと思うんですが。

先ほど言いましたように、指名停止をもう既にしたということは、この事件性は確実である。それから、九州防水が指名停止に値する会社だ、この事件によって。そういうことを前提にしているということは事実。

今の金の流れから第3番目の問題点、これが非常に大きいのですけれども、工事契約書を当然作成するわけですが、その約款の中に、これは行政のほうからもらったんですけども、当然、第6条「一括下請負の禁止」というものがあります。この一括下請負禁止を、時間があまりありませんが、さっと読みます。

一括委任又は一括下請負の禁止、第6条。「請負者は、工事の全部若しくはその主たる部分又は他の部分から独立してその機能を発揮する工作物の工事を一括して第三者に委任し、又は請け負わせてはならない」というふうになっております。

これはここに完全に条文があっております。これについて、損害賠償になるかならないかというのをやろうと思ったけど、時間がなくて、行政のほうも「なかなかそこまで判断できません」ということでしたので、これは次回に送ります。

今日やらなければ、今度は9月なんですよ、一般質問は。その間にやっても、市長にこういう形で問いただすことは今の議会ルールからするとなかなかできないんですよ、傍聴席の皆さん。だから、私は、今日やろうと。あと10分間ですけども。非常に今のところで問いただしていくことには限界がある。

議長にも——この問題は、市長がどうか行政がどうかではなく、市全体の問題としてみんなが真剣に取り組んでいかなきゃならない。

この「一括下請け禁止」という条項があるんです。だから、違反への罰則、あるいは、その他も出てまいります。これは市からもらった書類です。いいですね。私が勝手に持ってきたんじゃない。

この中で明らかになってきたものが、この場合、「その混乱期にYが独断で遂行し、市は不正や癒着を見抜けなかった」とか「下請け、孫請けが入っていたとは全く知らなかった」と。これをもとにです。

これは報道ですけども、「元請けは丸投げしていない」とか。それは言いますよね、当然。しかし、これだけ事件が明らかになってきているということ。ここに問題点があるということです。

最終的には私も再発防止策をやれということが結論になるわけですが、その前にこれがいかに大きな問題かということです。

これは、特命随意契約といって、私も詳しくありませんけれども、「緊急性、公共性の高い事業で、施工実績などを考慮し、業者を指名する」ということなんですが、これは報道によりますと、他市の市長のほうから出ている言葉ですが、参考に読みます。

「特命随意契約は施工実績などを考慮した業者指名である。全く別の業者が施行するなら適正性が確認できない。あり得ない」という見解。

もう一つ、「丸投げは工事の品質確保の観点から禁止しており、発注者を裏切る行為。事実なら朝倉市の事例は特異なものである」という被災市の見解が出ています。

これも、それは、はっきりせんとか言えばそうですけど、こういうことは私の常識でいくとそうなるだろうと思います。

今、この見解について市長に問いただしても先ほどの言葉しか出てこないんだったら残念だけど、前に進みませんので。

これで、私はこの問題が100万円の贈収賄事件だけではないんだと。やはりここで問題なのは、こういったことをきちんとしていかなかった、「仕方がない」「混乱期」、全てそれで終わらせてしまうならば、これから先もまだまだ、先ほど進捗状況というのを聞いたように、半分ぐらいしかできていないんですよ。だから、それが流木、家屋の面は終わりましたけども、あと、河川、道路、その他、撤去作業というのは、まだ残っています。だから、これを反省の大事な点として今後取り組んでいっていただきたい。

この点について、市長、一括下請け禁止についてどう思われますか、この違反について。お伺いしたいと思います。

○議長（堀尾俊浩君） 市長。

○市長（林 裕二君） 議員御指摘がございましたように、約款第6条の一括下請けの禁止違反は損害賠償の対象となるかということでございますけれども、「受注者は業務の全

部を一括して、又は、発注者が設計図書において指定した主たる部分を第三者に委託してはならない」との規定をしているところであります。

いわゆる丸投げをこの条項で禁じているということです。現時点において書類が手元にないこともあり、具体的にどのような措置ができるのかは回答を致しかねます。

○議長（堀尾俊浩君） 16番。

○16番（実藤輝夫君） あと5分ぐらいしかありませんけど。

私が、今、事実関係と思われるものを出しております。もちろんこれは今日で終わるわけではありませので、今後も続いていかなきゃいけない。

最後に、大きな問題としてやはり再発防止策、これは、当初、今回、1番目の議員として、4番議員からも話が出ましたように、やはり去年も不祥事件が起こっているわけです。ここ数年間も起こりました。起こるたびに再発防止、再発防止と。この問題は去年からすると、市長が現職のころから起こってきている問題で、2つ目、大きく。これも再発防止策という言葉だけで終わらせないで、先ほど言いましたように、具体的にどこが問題だと。ああいう場合でこそ、だからこそ、こうしなきゃならんということを、過去のことを踏まえながら検証しながら反省しながら出していく。これは非常に大事だと。

だから、同じことを再度再度繰り返してるんですよ、甘木市時代から。朝倉市になっても。いろんな人が、自殺もしました、辞めていきました、退職もしました、飲酒運転も起こりました、横領事件も起こりました。そして、今回、これです。

市長、やはりこれはもう本当に再発防止策を、お題目のような感じではなく、本当の意味でこれをできていかないといけない。そこに最大限のチェック機能というのをどういうふうに担保するのか。これは一人なんですよね。だから、こういうときには2人とか。警察の犯罪事件捜査でも2人ですよ、今、原則として。1人では行きません。

だから、そういう、1人だとやっぱり人間のいろんなものがありますので、ここをどうするかということが、一つ。

それから、これは人材育成ということです。今、Kに頼り過ぎたということがもう全てで、みんな逃げているような感じもする、聞いていると。

「あのときは仕方がなかった」「あれしかおらんやった、だから、しょうがないっちゃ」と。

こういう言い方は、少なくとも税の無駄遣いをやっているわけですから、税のチェック機関としての議会は、私個人としては許すわけにはいかないということです。だから、まず1点としては人材の育成を図ってほしい。

それから、契約後に定期的な検査、これはもう徹底してやれる体制をつくらないといかん。これは起こって3年目、その前の5年前から比べるともうあと二、三年で起こる可能性もかなりある。

去年も起こった。去年も起こって、西日本豪雨、19号台風、また去年のときには筑豊

のほうでも起こっている。だから、これは二、三年先、数年後にもまた同様なものが起こるという可能性は非常に大きいので、まさに今回これを議会としても。

議長、いいですか。

この問題を議会側としてもきちっとやっていきましょう。これは、市長はやると言っているから、これをただ単に行政だけの問題としてではなく、議会側も市民の負託に応えるべく、やはりこの再発防止について徹底してやっていく。

先ほどから述べるように、九州北部豪雨を忘れてはいけません。コロナ対策だけが、コロナだけが朝倉市の課題ではない。だから、九州北部豪雨という今回の問題をさらに契機として、被災地、被災者のために私たちは粉骨砕身努力していくべきである。

もう一つ、最後にあくまでも被災者の信頼回復を。市長、この点について、やはり私たちは今回がっくりに来ているのは、私も含めてですけれども、市長も含めてですが、やはりいろいろと言いたいと思っている被災者の人たちではないかなという気がします。私のところには10件以上来ておりますけれども、そのうちの8人は被災者関わりです。

市長、この件について最後をお願いします、簡単に。

○議長（堀尾俊浩君） 市長。

○市長（林 裕二君） この事件を通しまして、チェック体制を含めたところのあり方、この件については、人材育成という観点から提案がありましたので、これは非常に大事なことでございますので、しっかり取り組みをさせていただきます。

それから、定期的な検査、これについても、事件を再発させるわけにはいきませんので、含めてしっかりと検討をさせていただきます。

それから、信頼回復という点につきましては、しっかりとこの対応を取ること、再発防止をしっかりと理解していただく形をつくっていく、これを実践していくということが必要であると思いますので、しっかりとやります。

○議長（堀尾俊浩君） 16番。

○16番（実藤輝夫君） 時間が来ました。もっともっとやりたいんですけど、これはおっせこっせの段階です、今の段階は。また、次回もありますので、あと7月1日以降、市長も速やかに少しでもこの再発防止策、あるいは状況、これを議会のほうに教えていただきたいと思います。

これを持ちまして、私の一般質問を終わります。

○議長（堀尾俊浩君） 16番実藤輝夫議員の質問は終わりました。

以上で、通告による一般質問は終わりました。

これにて、一般質問を終了いたします。

暫時休憩いたします。午後2時10分より再開いたします。

午後2時零分休憩